

「高等学校における運動部活動のあり方とは」

菅野 正康 (上市・空手)	西島 隆 (桜井・ウエイトリフティング)
石田 勝幸 (海洋・空手)	川上 徹 (上市・ボクシング)
多賀 康晴 (富山・登山)	牧田洋一郎 (大沢野工業・ボート)
小山 健治 (大沢野工業・卓球)	小林 忠文 (雄峰南砺・体操)
梅木 愛 (福光・なぎなた)	西永 毅 (石動・ホッケー)
金谷 俊弘 (福野・サッカー)	大野 誠 (龍谷富山・剣道)

1. 調査の趣旨

学校部活動の衰退が指摘されて久しい。実施に生徒たちは運動部活動をどのようにとらえているかを知り、高等学校の部活動がより魅力あるもの、活発なものになるにはどうしてらいいかを探る。

2. 調査の設定

- 1 生徒が求める部活動とは?・・・調査1
- 2 学校外から求められる部活動とは?・・・調査2

3. 調査1

富山県内高校生 631 名を対象にアンケート調査を行った。[2003.9]

部活動に所属している生徒、していない生徒それぞれの意識を調査する項目を設定

① 部活動に所属している割合

意外に未加入は少なかった。ただし、一年間で約4割の生徒が退部を経験している。この理由はどこにあるのか。

(%)	1年	2年
最初から未加入	65	58
途中で転部	7	15
途中で退部	3	24
最初から未加入	5	3

② いっごろの退部(転部)しましたか?

この項目では「入部当初」と「2年4月—7月」までが多かった。2年になると意識に違いが出てくるのでしょうか。

③ なぜ退部(転部)したのですか。(なぜ未加入なのですか)

1. 自分の時間が欲しい
2. 向いていない
3. 入りたい部がなかった
4. 休日がない [少ない]
5. 指導に不満

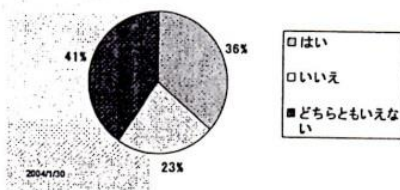
[上位5項目]

④ 理想の部とは? ⑤ 「部活動」はあなたにとって何ですか?

現在所属の部は理想の部か?

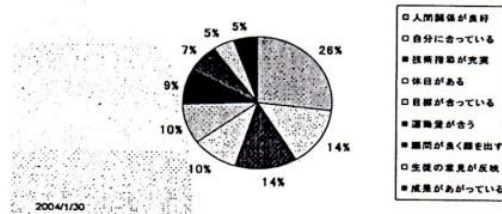
「どちらともいえない」が4割も。

所属しながら「理想ではない」と答えるのはなぜか...



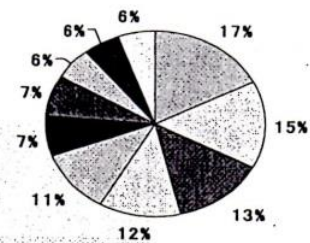
理想の部だ、と答えた理由

「人間関係が良好」「休日がある」「技術指導に満足」すれば理想の部! 「自分に合う」かも重要な要素。



理想の部ではない、と答えた理由

「技術指導に不満」「成果が上がらない」「休日がない」
「人間関係が悪い」と理想ではない。全員の活動制の影響も。

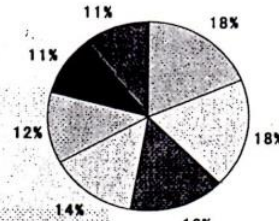


- 技術指導が充実していない
- 成果があがらない
- 休日がない(少ない)
- 人間関係が良くない
- 運動量が合わない
- 顧問が顔を出不さない
- 自分に合わない
- 目標が合っていない
- 生徒の意見が反映されない

2004/1/30

どちらでもない、と答えた理由

「人間関係が良好」だが「成果が上がらない」「技術指導に不満」
「休日」はやはり重要な要素。



- 人間関係が良好
- 成果があがらない
- 休日がない(少ない)
- 技術指導が充実していない
- 休日がある
- 顧問が良く顔を出す
- 技術指導が充実している

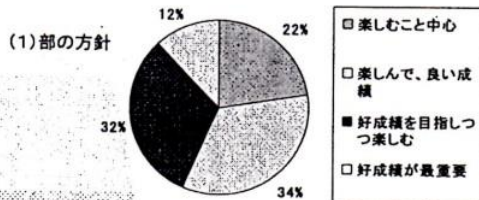
2004/1/30

13

④ 理想の部活動とは？

理想の部活動とは

「楽しい」と「好成績」、両立は可能か？

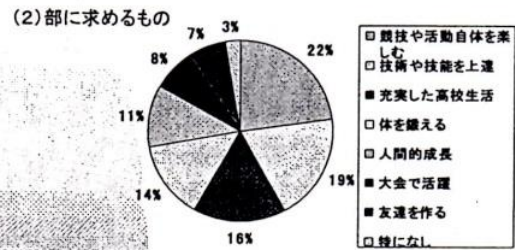


2004/1/30

14

理想の部活動とは

競技自体を楽しみ、技術を求める
「充実した高校生活」には部活動が必要

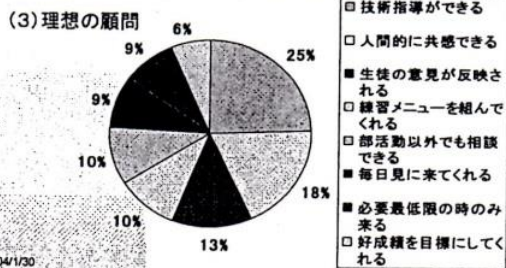


2004/1/30

15

理想の部活動とは

「技術指導ができ」「練習メニューを組む」強いリーダーシップを望み、人間的に共感・信頼できる顧問が理想



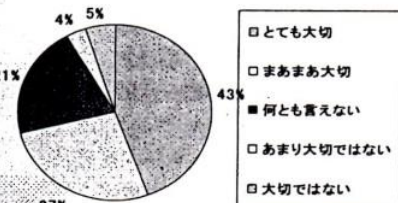
2004/1/30

16

「部活動」とはあなたにとって何ですか？

「大切！」が7割も。

(1) 部活動に対するあなたの考え

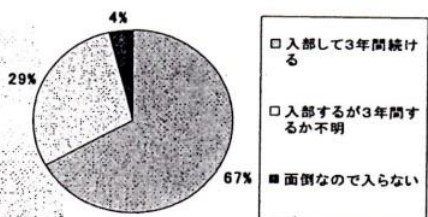


2004/1/30

17

「部活動」とはあなたにとって何ですか？

理想の部があれば続けたい
→ 部活動は「大切」と答えた生徒とほぼ符合するか？
(2) 高校入学時に自分の理想の部活動が存在していた場合



2004/1/30

18

4. 分析1

- (1) 1年間で約4割の生徒が退部を経験
- (2) 退部時期は入部当初と2年4月-7月までが多い
- (3) 退部理由は「時間が欲しい」「指導に不満」「入りたい部がない」
- (4) 所属している生徒でも6割の生徒が「理想だ」とは答えられない
- (5) 「人間関係が良好」でも「休日があり」「技術指導に満足」すれば「理想の部」
- (6) 「自分に合う」かも重要なポイントである
- (7) 「技術指導に不満」「成果が上がらない」「休日がない」と理想の部ではない
- (8) 全員部活動制で「仕方なく」所属している生徒も見られる
- (9) 楽しみながら好成績を求める
- (10) 活動自体を楽しみ技術の上達を求める
- (11) 「技術指導ができ」「練習メニューを組む」強いリーダーシップと人間的共感を顧問に求める
- (12) 部活動は充実した高校生活には大切なもの、としてとらえている
- (13) 理想の部があれば参加したい、と考えている

5. まとめ1

- (1) 思ったほど、生徒の部活動離れは進んでいない。生徒は部活動に期待している。
- (2) 「技術指導」が充実し、人間関係が良好であれば理想の部と感じる。
(理想の部だと答えた割合の高い生徒を抽出し検証するとやはりこれらの項目が高かった)
- (3) ただし、自分の時間が欲しいと感じる生徒は、退部(転部)者のみならず部活動を続けているものにも多く見られる。

6. 調査2

高体連に専門部のある競技の競技団体の理事長宛に調査依頼。ほぼ半数に当たる19団体より回答を得る。[2003.10]

① 競技団体が部活動に求めるもの

1. 普及・・・61%
2. 強化・・・41%

② 競技団体の満足度は?

指導体制					部員定着					競技力					団体との連携					生徒との信頼					競技の継続				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2	5	8	2	2	0	2	9	6	2	1	4	11	3	0	3	11	5	0	0	1	7	9	1	0	0	4	10	5	0

* 満足度が高いほうから5とする。(不満度が高いのが1である)

* 下段の数字は団体数

③ 活性化するには?

1. 指導者確保・・・8団体
 2. 競技会のPR・・・2団体
- その他
- ・ 環境整備 ・ 特待生枠
 - ・ 小・中での普及 ・ 競技団体との連携
 - ・ 合同部活動のような形式
 - ・ 楽しむ傾向と競技傾向に分かれつつある。それに対応すべき。

④ 競技団体から高等学校部活動への意見

1. 指導者の確保・・・6団体
2. 強化だけでない指導のあり方・・・2団体
3. 部の設置を・・・2団体

⑤ 部の存続について

- 危機感あり・・・15団体
- 危機感なし・・・2団体

7. まとめ2

- (1) 競技団体が部活動に求めるものは「普及」である
- (2) 競技団体はおおむね高等学校部活動に満足している
- (3) ただし、部の衰退などを危惧し、指導者の確保を求めている
- (4) 部の存続の危機は「普及」を求める競技団体にとって深刻な問題である

8. 提言

○生徒が顧問を信頼して活動できる環境作りには技術指導のできる顧問の存在が不可欠である。

現在その対策として「スポーツエキスパート」が考えられるが年間30回という限られた指導体制の中では限界がある。

そのため、①専門性のある教員の確保

②専門性を考えた教員配置〔強豪校のみではない！〕

③外部講師枠の予算的、人的拡大 が望まれる

○部活動の環境整備

週休2日制や7限授業実施など環境の変化は部活動に影響する。顧問が部活動に熱意を傾けられるためには現場の多忙化を解消しなくてはならない。

○部活動の社会体育への移行、という流れがあるが、学校で部活動を実施する意義を再認識すべきである。

高校生の部活動への期待の高さ、競技団体が部活動へ寄せる期待（普及など）から見ても部活動の果たす意義は非常に大きいものといえる。